

普及活動情勢報告（令和元年9月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

赤ピーマンの品質向上を目指して ～唐浜ピーマン部会勉強会～



フェロモン剤について
説明する普及指導員

8月22日、唐浜ピーマン部会が唐浜集出荷場で品質向上に向けた勉強会を開催し、6人が参加しました。

農業改良普及課は、害虫対策、GAPなどについて指導しました。前作では、薬剤主体の防除を行ったほ場で、薬剤感受性の低下による薬剤がききにくくなった事例が発生したことから、天敵主体の防除体系案を示し、フェロモン剤の使用などIPM技術を紹介しました。

生産者からは「やっぱり天敵は入れないといけないね」、「最近はやってなかったけどフェロモン剤をまたやってみようか」といった前向きな意見が出ました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して現地巡回や勉強会などを通じて赤ピーマンの品質向上を図ります。

「青玉ゆず知ってますか？」 ～JA安芸地区柚子部の消費宣伝～



青玉のえい香りを
味わってください

8月22日、農業改良普及課の普及指導員がJA安芸地区柚子部の生産者とともに東京で『青玉ゆず』の消費宣伝を行いました。

聞き取り調査では、ゆずは知っているが、青玉ゆずは知らないという人が多く（75%）、認知度はまだまだ低いですが、店内に広がる『香り』に誘われて試食、購入していく人も多く、消費に関して大きな可能性を感じました。

さらなる消費拡大には産地側からの働きかけが重要であり、新たなレシピ等の作成が必要だと考えられます。

農業改良普及課は、今後も青玉ゆずの消費拡大と生産振興の取組を支援します。

さらなる高みを目指して!! ～芸西支部ブルースター部会反省会～



みなさん、肥料のやり過ぎに
注意しましょう!!

8月23日、ブルースター部会が芸西集出荷場で31園芸年度出荷反省会を開催し、10人が参加しました。

農業改良普及課からは、これまでの部会平均の10aあたり出荷本数をグラフで示し、来期の目標出荷本数を提示しました。そのための方策として適性な肥培管理の実践ができるよう、JAと協力して毎月の土壌分析を実施することを提案し、まずは各生産者の栽培開始時の土壌診断結果を報告しました。

生産者からは、「生産者間でスタート時点の肥料分にこんなに差があるとは思わなかった」、「追肥の目安についても指導してほしい」といった声が聞かれ、来期の取り組み内容について了解を得ることができました。

農業改良普及課は、今後もJAと協力して生産者の栽培技術の向上を図り、オキシペタラム（ブルースター）の産地の維持・発展を目指しています。

さあ、もうすぐ稲刈りだ！蔵元と一緒にほ場を巡回
～東川酒米研究会現地検討会～



最後まで気を抜かず頑張るぞ！

9月10日、安芸市東川地区で東川酒米研究会が稲刈りの時期を決める現地検討会を開催しました。

今回は参加者14人（うち、生産者8人、蔵元2人）で一緒にほ場を巡回し、稲刈りの時期は9月20日～9月25日を目安にすることが決まりました。

農業改良普及課からは地力を上げるための土作りを指導し、生産者からは来作に向けた準備についての質問が多く出されました。

蔵元からは「昨年の西日本豪雨にも負けず栽培に取り組む姿を見て、自分たちも美味しい酒作りを頑張っていきたいと思った。」といった言葉を頂き、生産者のやる気が高まった様子が見られました。

農業改良普及課は、中山間農業の維持発展を目指し、今後も東川産酒米の品質と収量の向上を支援します。

IoP（Internet of Plants）に向けた新たな船出を！
～令和元年度第2回安芸地区環境制御技術普及推進PT会～



IoPと環境制御の推進方向の
意識統一ができました

9月11日、JA高知県安芸営農経済センターで第2回安芸地区環境制御技術普及推進PT会を開催し、農業改良普及課職員とJA営農指導員の19人が出席しました。

農業改良普及課からは今年度から運用が開始された生産予測システムや環境制御技術アドバイザー制度等のIoPプロジェクトの推進方向、令和2園芸年度の実証展示ほ計画等について報告しました。

環境制御機器について、「補助事業があるからといって設備の過剰投資になりがちではないか」、「自分が新規就農者となった場合最低限必要な機器は何か」等の意見があり、今後機器の導入を考える生産者への推進方向の共有ができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、IoPプロジェクトの推進および環境制御の技術指導に努めます。

まずはスピード感をもって園内一巡を！
～ ポンカン摘果講習会 ～



ちゃちゃっと
摘んでいきましょう

9月12日、室戸市吉良川地区においてポンカンの摘果講習会を開催し、9人が参加しました。

農業改良普及課室戸支所は、収穫時に主力の2Lサイズに揃えられるよう、極端な大玉果や小玉果、傷果等をまずは手の届く範囲でスピード感をもって園内一巡、摘果するよう指導しました。

生産者からは、吉良川地区は風当たりの強い地区のため、摘果以外にかいよう病の対策や、防風樹の管理等、多くの質問が出ました。

農業改良普及課室戸支所は、今後もJAと連携して現地巡回や「ポンカン便り」などを通じて品質向上を図ります。